

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730156

研究課題名 (和文) 資本蓄積と健康蓄積

研究課題名 (英文) Wealth Accumulation and Health Accumulation

研究代表者

小原 美紀 (KOHARA MIKI)

大阪大学・大学院国際公共政策研究科・准教授

研究者番号：80304046

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学，応用経済学

キーワード：労働経済学，消費行動，リスク，格差，医療経済学

1. 研究計画の概要

本研究では，資産蓄積と健康蓄積の実態について，日本の個票データを用いた計量分析を行い，以下の3点を明らかにする。

- (1)何が予備的貯蓄と予備的な時間投資の同時決定に影響するか。
- (2)予備的な行動は資産と健康の蓄積結果を変えるか。
- (3)資産と健康の格差に関係はあるのか。

2. 研究の進捗状況

これまでに，上記の課題(1)(2)について，独自のアンケート調査（『家計のリスクに関する調査』）を用いた分析を行った。複数の健康投資行動および健康状態の同時性を取り入れたモデルの分析により，禁煙や十分な睡眠といった予備的な健康投資行動が健康状態を高めることが示された。分析では，同時性だけでなく，予備的行動を促す重要な要素とされている時間選好度や危険回避度の差も捉えている。この分析結果は査読を経て，「医療経済研究」に掲載された（タイトル：予防行動と健康状態）。

これらの分析を進めるにあたり，新たに研究が必要だと考えられる課題が生じた。それは，親の予備的な行動がその家計の豊かさと子どもの健康状態に与える影響についてである。そこで，これに関して世界各国で得られている分析結果を展望しサーベイ論文として公刊した。また，県別データを使って日本における親の貧困と子どもの健康状態の関係について分析し，結果をいくつかの学会で報告したのち，「日本労働研究雑誌」に掲載した（タイトル：親の失業が新生児の健康状態に与える影響）。

さらに，豊かな家計と貧しい家計で，親が

子どもの健康状態を作り上げる行動（たとえば料理を作るなど）に差があるかについて分析をしている（タイトル："Do working mothers reduce their home production?")。

最後に，(3)については，資産格差が健康格差をもたらしているかを日本の長期パネルデータを用いて分析している（仮タイトル："Health and Wealth Accumulation in Japan")。

3. 現在までの達成度

- ①当初の計画以上に進展している点
(理由)

当初は予定していなかった世代間にまたがる健康格差と資産格差の関係について分析を行い，結果を学会等で報告し論文として公刊することができた。

- ③やや遅れている点
(理由)

当初の計画では，日本全体の大規模マイクロデータ（当初の予定では国民生活基礎調査）を用いた分析も考えていたが，現在のところ申請を行っていない。理由は，このテーマについて経済学的に分析するためには，パネルデータ（少なくとも健康状態の異時点間の変化を捉えたデータ）が必要であることを強く感じるに至ったからである。

4. 今後の研究の推進方策

第一に，課題(2)について，2で述べた論文「親の失業が新生児の健康状態に与える影響」を展開する。十分に捉えられなかった要素について再吟味したい。

第二に，課題(2)について，2で述べた論文"Do working mothers reduce their home production?"について，robustness checkを

行い、分析を完成させ、発表する。

第三に、課題(3)について、2で述べた論文 "Health and Wealth Accumulation in Japan"について、(財)家計経済研究所の『消費生活に関するパネル調査』を用いた、健康の異時点間の相関を考慮したダイナミックモデルの推定を完了させ、学会等で報告し、雑誌に投稿する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① 梶谷真也・小原美紀、「予防行動と健康状態」、『医療経済研究』、22 巻、47-62 頁、2010、**査読有**
- ② 大竹文雄・小原美紀、「失業率と犯罪発生率の関係：時系列および都道府県別パネル分析」、『犯罪社会学研究』、35 巻、54-71 頁、2010、**査読無**
- ③ Miki Kohara, "The Response of Japanese Wives' Labor Supply to Husbands' Job Loss," Journal of Population Economics, vol.23, pp.1133-1149, 2010, **査読有**.
- ④ Yasushi Iwamoto, Miki Kohara and Makoto Saito, "On the consumption insurance effects of long-term care insurance in Japan: Evidence from micro-level household data," Journal of Japanese and International Economies, vol.24, no.1, pp.99-115, 2010, **査読有**.
- ⑤ 小原美紀・大竹文雄、「親の失業が新生児の健康状態に与える影響」、『日本労働研究雑誌』、2010 特別号 (595 号)、15-26 頁、2010、**査読無**
- ⑥ 大竹文雄・小原美紀、「貧困・消費」大内尉義・秋山弘子編『新老年学』所収、第 2 章 (6 節 2)、東京大学出版会、1740-53 頁、2010、**査読無**
- ⑦ 大竹文雄・小原美紀、「所得格差」樋口美雄編『労働市場と所得分配』所収、第 8 章、慶應義塾大学出版会、253-285 頁、2010、**査読無**
- ⑧ 小原美紀・大竹文雄、「子どもの教育成

果の決定要因」、『日本労働研究雑誌』、7 月号、67-84 頁、2009、**査読無**

- ⑨ 小原美紀、「親の介護と子の労働供給」、『日本経済研究』、第 60 号、36-59 頁、2009、**査読有**
- ⑩ 小原美紀、「家計内交渉と家計の消費行動」、チャールズ・ユウジ・ホリオカ・家計経済研究所編『世帯内分配と世帯間移転の経済分析』、48-72 頁、2008、**査読無**

[学会発表] (計 5 件)

- ① 小原美紀 "Do working mothers reduce their home production time?" 関西労働研究会, 2010 年 9 月 7 日, 於: 兵庫県立淡路国際会議場 (兵庫)
- ② 小原美紀 "Are Longer Unemployment Durations Rewarded by Longer Job Tenures?" ARISH-NUPRI 経済学ワークショップ, 2010 年 3 月 8 日, 於: 日本大学大学院総合科学研究科 (東京)
- ③ 小原美紀 「親の失業が子どもの成長に与える影響—健康と教育の視点から」政策研究大学院大学教育政策セミナー, 2010 年 2 月 22 日, 於: 政策研究大学院大学 (東京)
- ④ 小原美紀 "Are Longer Unemployment Durations Rewarded by Longer Job Tenures?" 関西労働研究会・行動経済学研究会, 2009 年 7 月 24 日, 於: 関西経済連合会会議室 中之島センタービル (大阪)
- ⑤ 小原美紀 「親の失業が新生児の健康状態に与える影響」労働政策研究会議, 2009 年 6 月 20 日, 於: 労働政策研究・研修機構 大同生命霞が関ビル (東京)

[その他]

ホームページ

<http://www2.osipp.osaka-u.ac.jp/~kohara/>